

へき地病院再生支援・教育機構

論文

A 欧文

A-a

1 Tayama J, Nakaya N, Hamaguchi T, Saigo T, Takeoka A, Sone T, Fukudo S, Shirabe S. Maladjustment to Academic Life and Employment Anxiety in University Students with Irritable Bowel Syndrome. PLoS One. 2015 Jun 17; 10(6): e0129345. doi: 10.1371/journal.pone.0129345. eCollection 2015.

B 邦文

B-a

1 中桶 了太：地域で学ぶー地域はプライマリ・ケアのフィールド Learning community – based medicine in the rural areas : Rural areas is the field of primary care. 日本の地域医療教育イノベーション vol.7. 7 : 113-116, 2015.5.16

2 中桶 了太, 調 漸, 度島 容子, 原田 育子, 池田 柊一, 押淵 徹：平戸と長崎大学で育てる地域医療(第2報) ながさき県北地域医療コンソーシアムによる地域医療人教育の点から面への展開. 地域医療 (0289-9752) 第54回特集号 : 1313-1316, 2015.3

3 Bernick Peter, 西郷 達雄, 小川 さやか, 田山 淳, 調 漸:新入学部生におけるソーシャルサポートと心理的苦痛との関連性の検証. CAMPUS HEALTH (1341-4313) 52 (1) : 393-395, 2015.3

4 小川 さやか(長崎大学保健・医療推進センター), 西郷 達雄, 福原 視美, Bernick Peter, 田山 淳, 林田 雅希, 調 漸 新入学生を対象としたうつ予防のための集団認知行動療法. CAMPUS HEALTH (1341-4313) 52 (1) : 300-302, 2015.3

5 田山 淳, 西郷 達雄, 小川 さやか, 林田 雅希, 調 漸:過敏性腸症候群の大学生における修業状況 心身症のモデル病態における修業上の問題. CAMPUS HEALTH (1341-4313) 52 (1) : 168-170, 2015.3

6 古林 正和, 山崎 浩則, 田山 淳, 黒木 優子, 前田 真由美, 大坪 敬子, 阿比留 教生, 林田 雅希, 調 漸 : デュアルスキャンを用いた青年期成人の内臓脂肪面積測定とメタボリックシンドローム診断基準項目の評価. CAMPUS HEALTH (1341-4313)52 (1号) : 121-123, 2015.3

7 山崎 浩則, 田山 淳, 古林 正和, 前田 真由美, 大坪 敬子, 黒木 優子, 阿比留 教生, 林田 雅希, 調 漸 :青年期成人の内臓脂肪と生活習慣の関連性. CAMPUS HEALTH (1341-4313)52 (1) : 116-118, 2015.3

8 中桶 了太： 地域医療における人材育成の現状と展望-医師, 歯科医師, 薬剤師育成における共修の面から. 日本歯科医学教育学会雑誌 31 (3) : 121-122, 2015.12

9 中桶 了太, 浜田 久之, 原田 直樹, 今立 俊輔, 調 漸 :意見 :カナダの地域医療人育成~Northern Ontario School of Medicine 訪問~. 医学教育 46 (5) : 429~430, 2015.10

B-c

1 中桶 了太：「入浴のケア」. 今日の治療指針 私はこう治療している 2016年版. 医学書院 : 1596, 2016.1

研究業績集計表

教室等名：614 へき地病院再生支援・教育機構

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2015	1	0	0	0	0	1	0	9	0	1	0	0	10	11

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計		B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会				シンポジウム	学会		
2015	1	0	0	1		9	0	0	9	10

論文総数に係る教員生産係数一覧

	$\frac{\text{欧文論文総数}}{\text{論文総数}}$	教員生産係数 (欧文論文)		$\frac{\text{SCI掲載論文数}}{\text{欧文論文総数}}$	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2015	0.091	0.333		0	0

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2015	0	0	0